

平成27年度 第3回  
ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

岩手県保健福祉部地域福祉課

# ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

## I アンケートの趣旨

県では、「すべての県民が安心して生活し、かつ、等しく社会参加することができる豊かで住みよい地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、これまで、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。本調査は、今後の、県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

## II 調査実施期間

平成27年12月17日(木)～12月31日(木)

## III 調査方法

調査紙郵送またはインターネット

## IV 調査対象

平成27年度希望郷いわてモニター295名

## V 回答者数

241名

## VI 回答率 81.7%

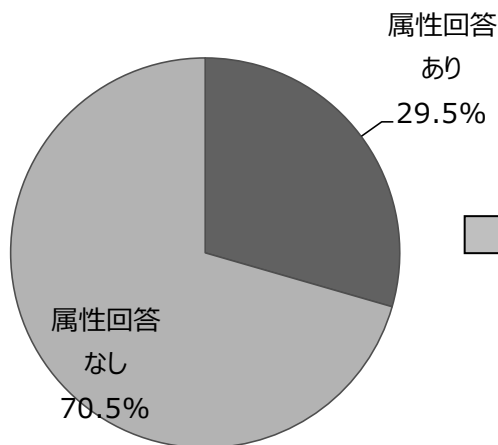
## 回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	71	29.5%
属性回答なし	170	70.5%
合計	241	100.0%

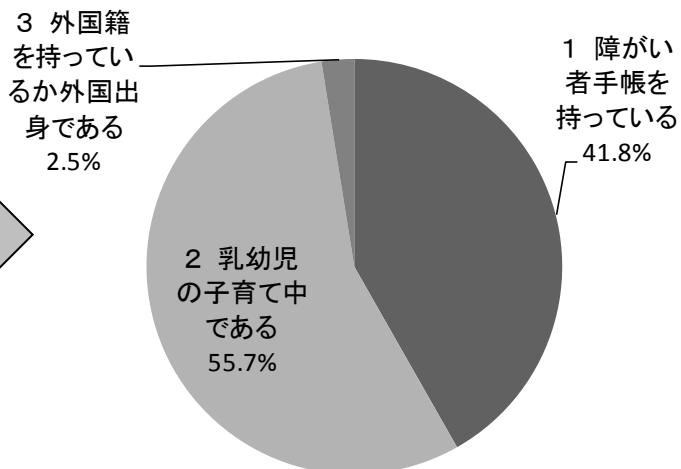
### <属性の内訳> (重複あり)

	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	8	10.1%	25	31.6%	33	41.8%
2 乳幼児の子育て中である	27	34.2%	17	21.5%	44	55.7%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	2	2.5%	2	2.5%
合計	35	44.3%	44	55.7%	79	100.0%

### 回答者



### 属性回答者 本人もしくは家族の状況



### 【調査結果】

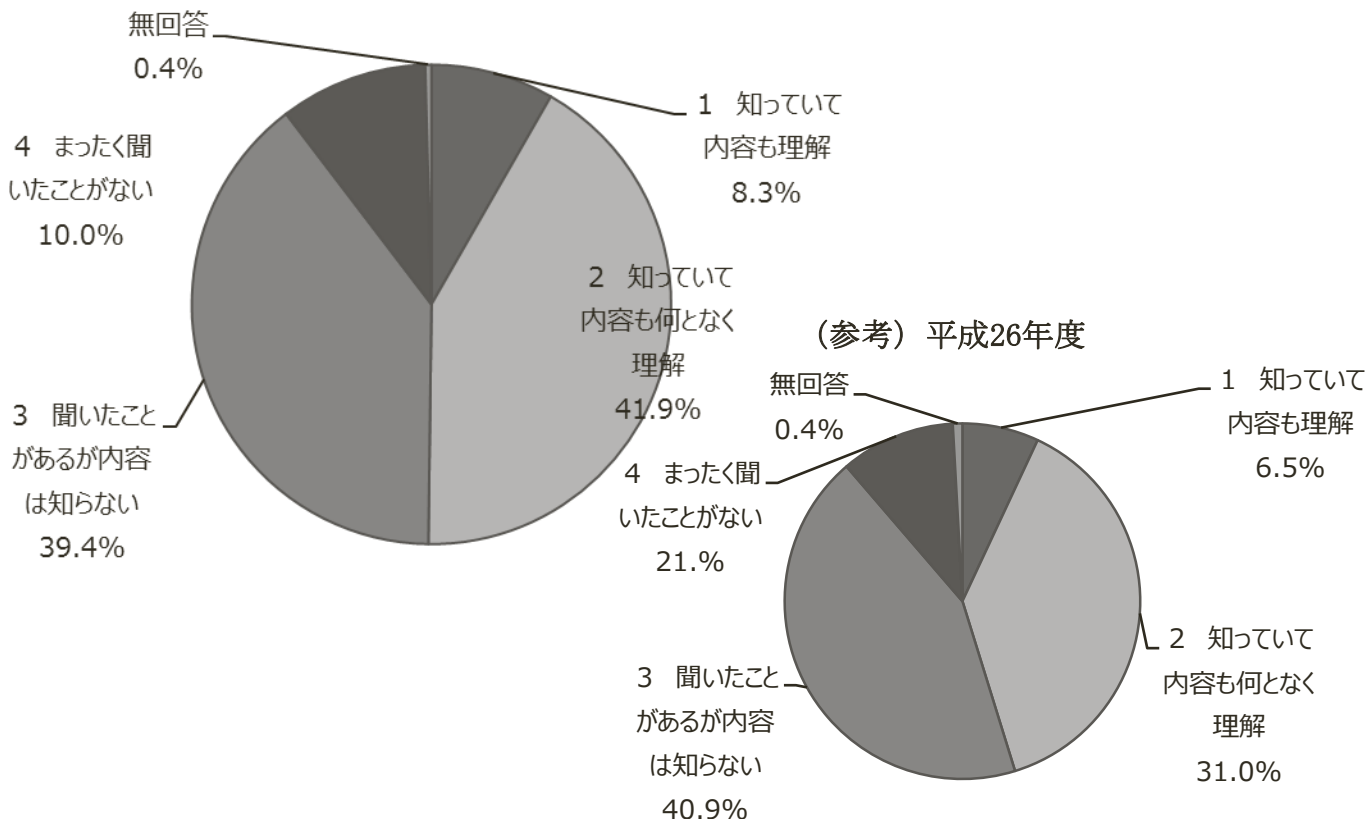
属性の回答があった方のうち、それぞれ5割近くに相当する方が、本人か家族が障がい者手帳を持っている又は乳幼児を子育て中である。

## 質問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。次の中から1つ選んでください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解	20	8.3%	15	6.5%
2 知っていて内容も何となく理解	101	41.9%	72	31.0%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	95	39.4%	95	40.9%
4 まったく聞いたことがない	24	10.0%	49	21.1%
無回答	1	0.4%	1	0.4%
合計	241	100.0%	232	100.0%

条例・推進指針等の周知状況



### 【結果概要】

5割程度の方がひとにやさしいまちづくり条例等を知っていて内容も理解している(「何となく理解」も含む。)と回答しており、平成26年度と比べると12.7ポイント上がっている。

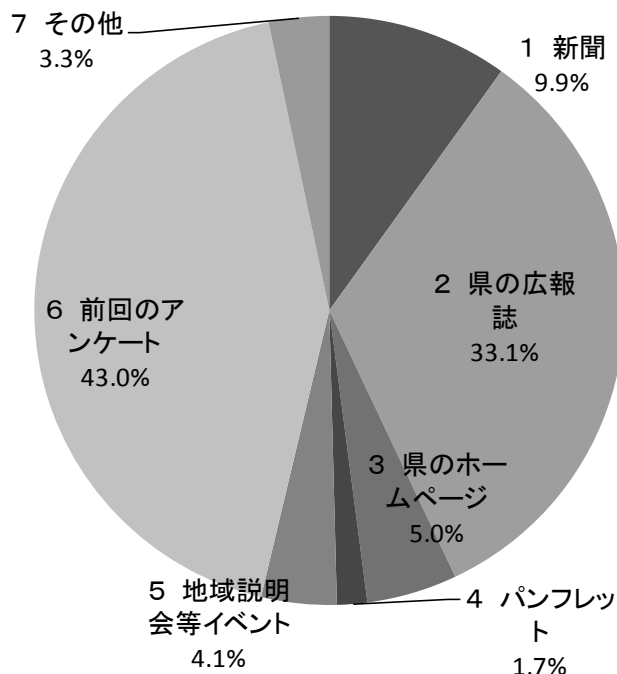
## 質問2

質問1で①、②を選択された方にお聞きします。あなたが「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知ったきっかけは何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

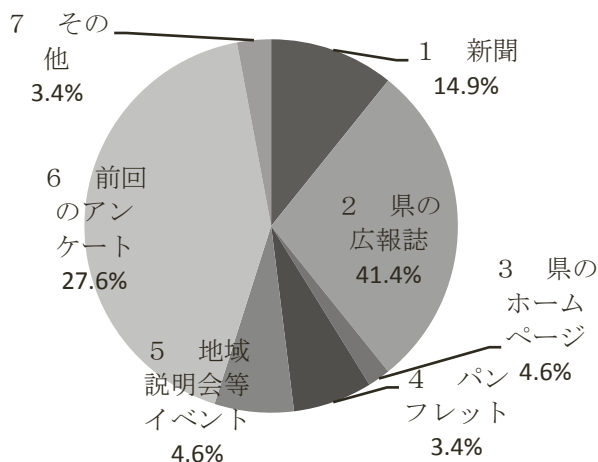
	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	12	9.9%	13	14.9%
2 県の広報誌	40	33.1%	36	41.4%
3 県のホームページ	6	5.0%	4	4.6%
4 パンフレット	2	1.7%	3	3.4%
5 地域説明会等イベント	5	4.1%	4	4.6%
6 前回のアンケート	52	43.0%	24	27.6%
7 その他	4	3.3%	3	3.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	121	100.0%	87	100.0%

<7その他の主な内容>  
「研修を通じて」「さまざまなメディアで」など

### 条例・指針を知ったきっかけ



### (参考) 平成26年度



### 【結果概要】

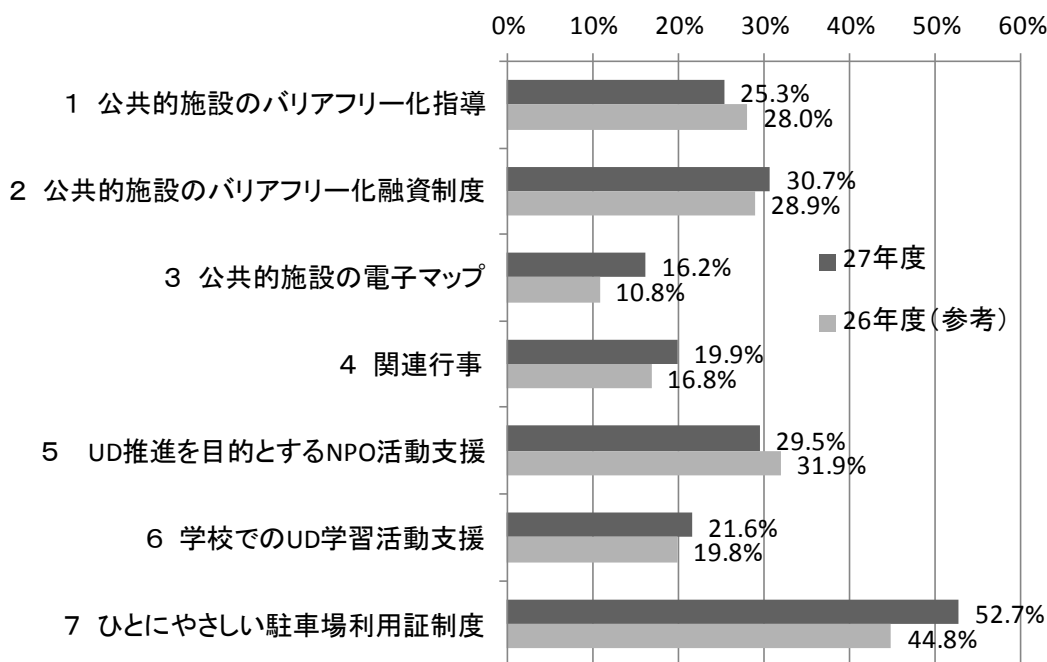
ひとにやさしいまちづくり条例や同指針を知ったきっかけとして、広報誌を挙げるケースが多く、今後も啓発を継続する必要がある。

### 質問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたりしたことのあるもの、利用したことのあるもの全てに○を付けてください。  
(複数回答、比率は回答者実数に対するもの)

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	61	25.3%	65	28.0%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	74	30.7%	67	28.9%
3 公共的施設の電子マップ	39	16.2%	25	10.8%
4 関連行事	48	19.9%	39	16.8%
5 UD推進を目的とするNPO活動支援	71	29.5%	74	31.9%
6 学校でのUD学習活動支援	52	21.6%	46	19.8%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度	127	52.7%	104	44.8%
(回答者実数計)	241	-	232	-

### 事業の周知割合



#### 【調査結果】

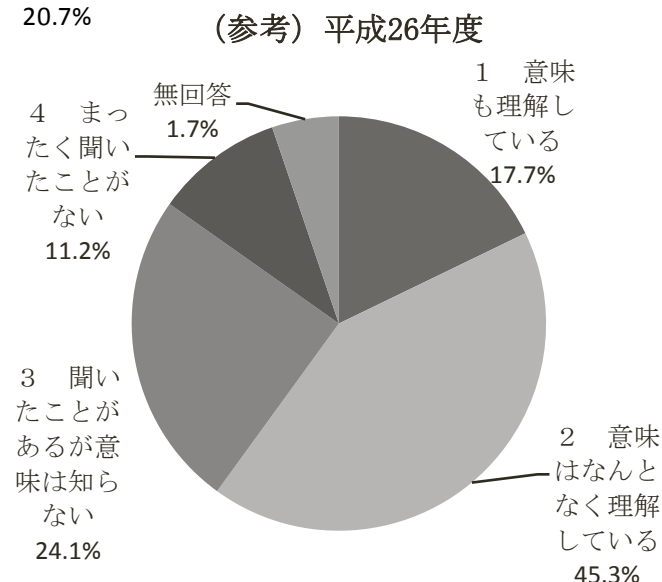
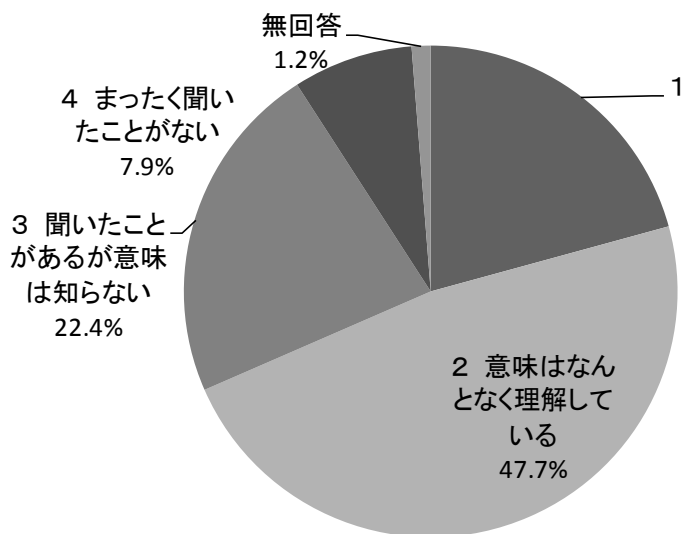
平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度は52.7%と突出しており、他の項目もほぼ平成26年度と同様の比率となっている。

## 質問4

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 意味も理解している	50	20.7%	41	17.7%
2 意味はなんとなく理解している	115	47.7%	105	45.3%
3 聞いたことがあるが意味は知らない	54	22.4%	56	24.1%
4 まったく聞いたことがない	19	7.9%	26	11.2%
無回答	3	1.2%	4	1.7%
	241	100.0%	232	100.0%

### ユニバーサルデザインの理解度



### 【調査結果】

平成26年度と比較して、「ユニバーサルデザイン」という言葉を聞いたことがあり、意味を理解（「なんとなく理解」も含む。）している方の割合がやや増加（+5.4ポイント）しているが、依然として3割程度の方々には理解されているとは言い難い状況にある。

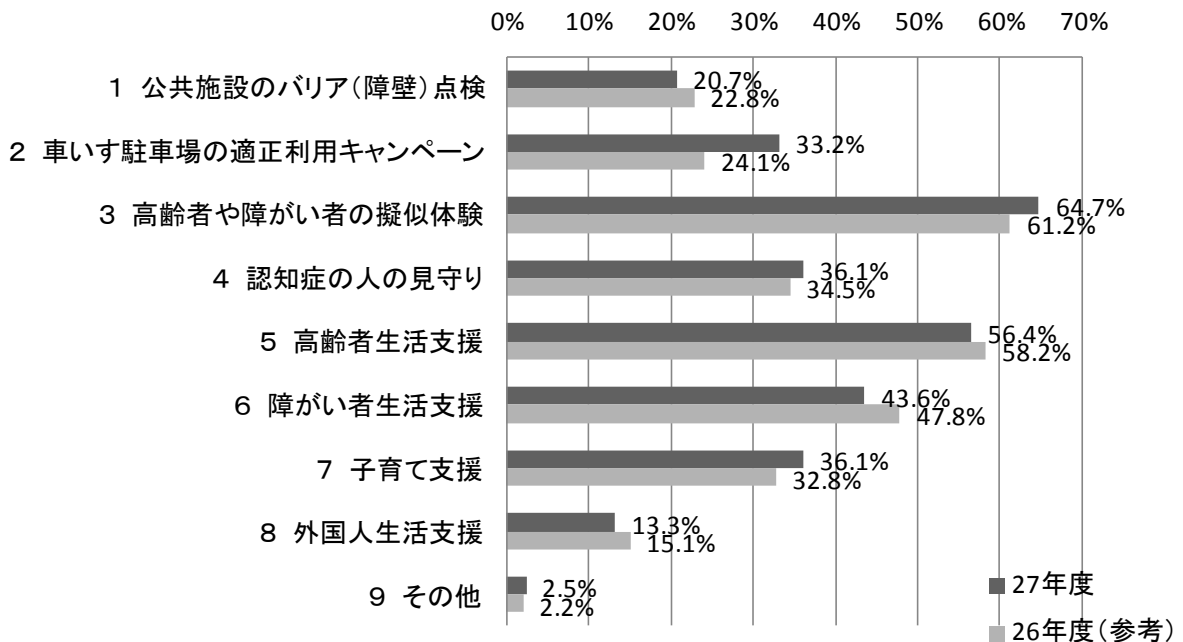
## 質問5

まちで、以下の活動や、その活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるもの全てに○を付けてください。  
(複数回答、比率は回答者実数に対するもの)

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア(障壁)点検	50	20.7%	53	22.8%
2 車いす駐車場の適正利用キャンペーン	80	33.2%	56	24.1%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	156	64.7%	142	61.2%
4 認知症の人の見守り	87	36.1%	80	34.5%
5 高齢者生活支援	136	56.4%	135	58.2%
6 障がい者生活支援	105	43.6%	111	47.8%
7 子育て支援	87	36.1%	76	32.8%
8 外国人生活支援	32	13.3%	35	15.1%
9 その他	6	2.5%	5	2.2%
(回答者実数計)	241	-	232	-

### <9その他の内容>

- 聴覚障がい者のサークル活動
- 近所の高齢世帯、1人暮らし世帯の生活支援(草刈り、除雪、農作業等)を行っている。



### 【調査結果】

平成26年度に引き続き「高齢者や障がい者の疑似体験」と「高齢者・障がい者の生活支援」と答えた方が多い。

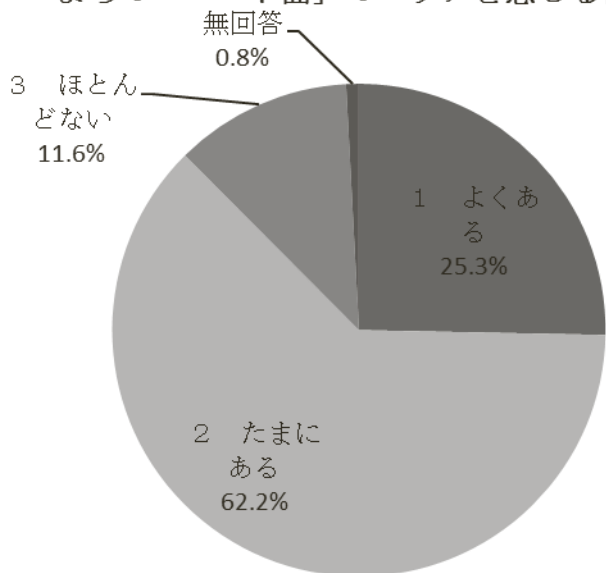


## 質問6

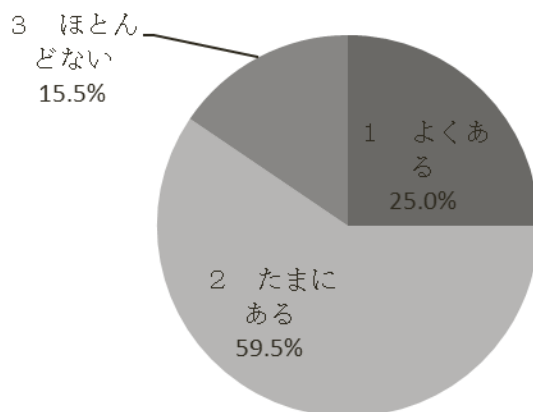
まちの中の「ハード」(公共的施設、道路など)にバリア(障壁)を感じる時はありますか。次の中から1つ選んでください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よくある	61	25.3%	58	25.0%
2 たまにある	150	62.2%	138	59.5%
3 ほとんどない	28	11.6%	36	15.5%
無回答	2	0.8%	0	0.0%
計	241	100.0%	232	100.0%

まちの「ハード面」のバリアを感じる機会



(参考) 平成26年度



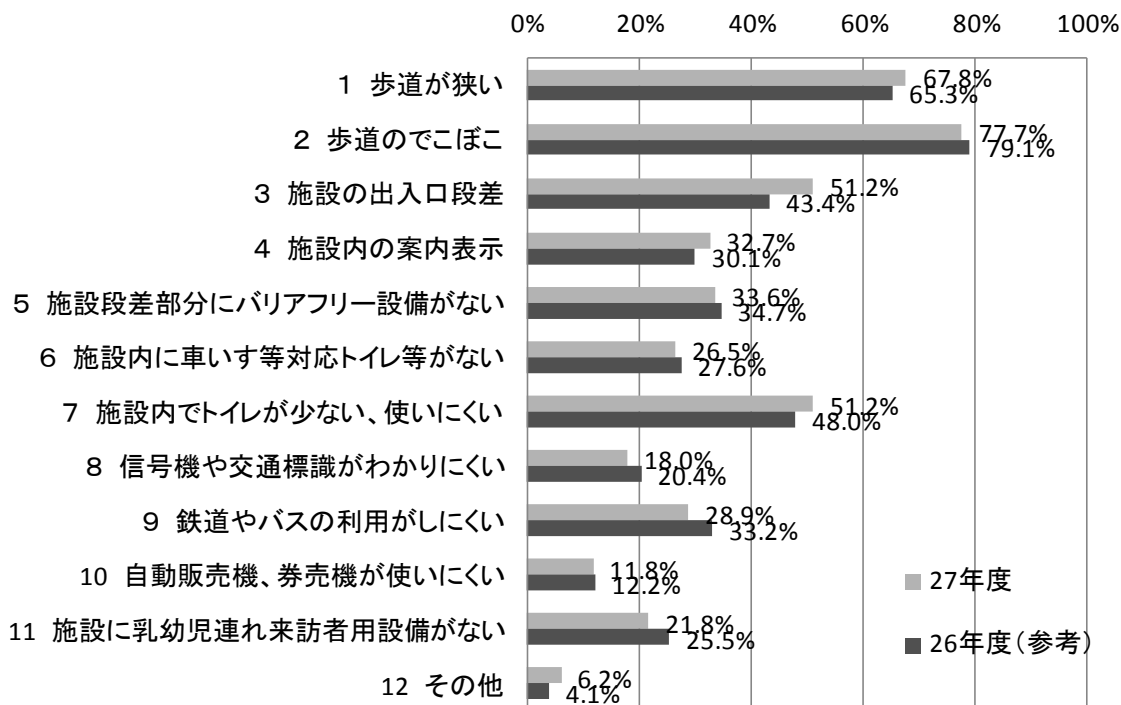
### 【調査結果】

平成26年度と比較して、「よくある」または「たまにある」と回答した方の割合がやや増加(+3.0ポイント)しており、まちの中にまだたくさんのハード面のバリアが存在し、多くの方が不便を感じていることが伺える。

## 質問7

質問6で①、②を選択された方にお聞きします。バリアを感じるのは、どんなことですか。次の中から5つ選んでください。(複数回答、比率は回答者実数に対するもの)

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	143	67.8%	128	65.3%
2 歩道のでこぼこ	164	77.7%	155	79.1%
3 施設の出入口段差	108	51.2%	85	43.4%
4 施設内の案内表示	69	32.7%	59	30.1%
5 施設段差部分にバリアフリー設備がない	71	33.6%	68	34.7%
6 施設内に車いす等対応トイレ等がない	56	26.5%	54	27.6%
7 施設内でトイレが少ない、使いにくい	108	51.2%	94	48.0%
8 信号機や交通標識がわかりにくい	38	18.0%	40	20.4%
9 鉄道やバスの利用がしにくい	61	28.9%	65	33.2%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	25	11.8%	24	12.2%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	46	21.8%	50	25.5%
12 その他	13	6.2%	8	4.1%
(回答者実数計)	211	—	196	—



### 【調査結果】

歩道、施設の出入り口段差、トイレの数や案内表示、公共交通機関への不満が多く、全体的な傾向は変化していない。

<12その他の内容>

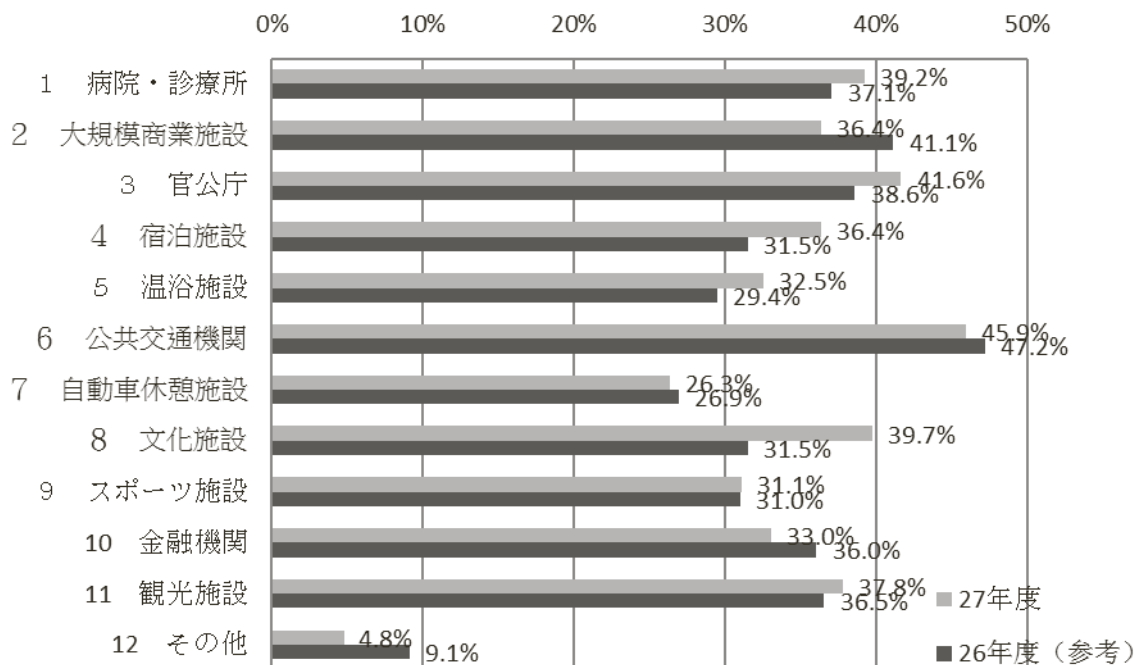
- バスの停留所に風雨除けの施設がない。
- 暖房付き様式トイレがない。
- 主に築年数が古い建物にバリアを感じる。
- 授乳スペースやおむつ交換スペースは女子トイレ内に設置されていることが多く、父親は使えない。
- 車いすを使用して道を横断する際、歩道と車道の間には段差があり、バリアを感じる。
- スロープがあっても急だと利用できない。

## 質問8

同じく質問6で①、②を選択された方にお聞きします。バリアを感じたことのある施設全てに○を付けてください。(複数回答、比率は回答者実数に対するもの)

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院・診療所	82	39.2%	73	37.1%
2 大規模商業施設	76	36.4%	81	41.1%
3 官公庁	87	41.6%	76	38.6%
4 宿泊施設	76	36.4%	62	31.5%
5 温浴施設	68	32.5%	58	29.4%
6 公共交通機関	96	45.9%	93	47.2%
7 自動車休憩施設	55	26.3%	53	26.9%
8 文化施設	83	39.7%	62	31.5%
9 スポーツ施設	65	31.1%	61	31.0%
10 金融機関	69	33.0%	71	36.0%
11 観光施設	79	37.8%	72	36.5%
12 その他	10	4.8%	18	9.1%
(回答者実数計)	209	—	197	—

### バリアを感じる施設



### 【調査結果】

公共交通機関、官公庁については4割以上の方が何らかのバリアを感じたことがある。また、文化施設、病院、観光施設、大規模商業施設、宿泊施設も比較的高い割合を示している。

<12その他の内容>

●歩道

●学校

●公共施設の入口外部にバリアフリーを考慮したのか軽い傾斜がついている店や病院があるが、雪が降ったり凍結状態の時滑って転倒したりするので、手すりを付けてほしいと思う時がある。

●地方は全体的にバリアがある。

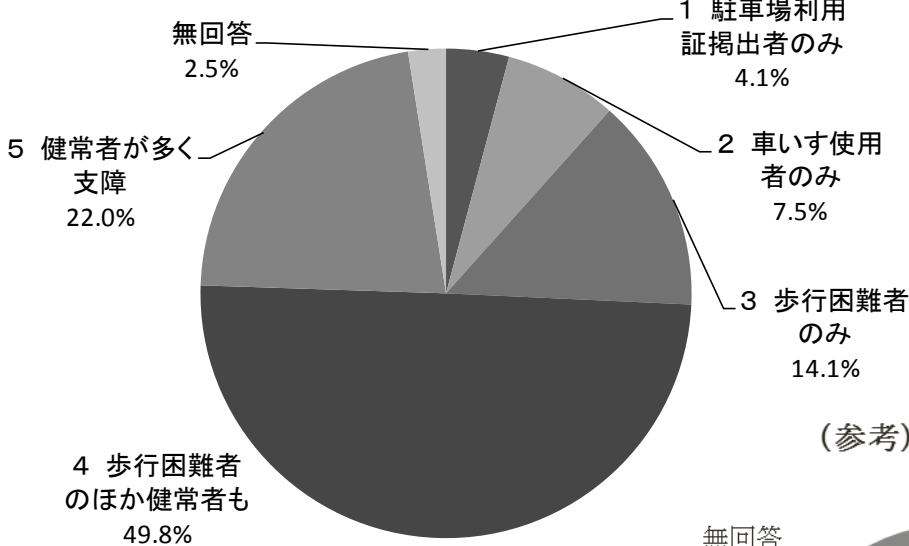
## 質問9

公共的施設には、車いすを使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車いす駐車区画」が設けられています。

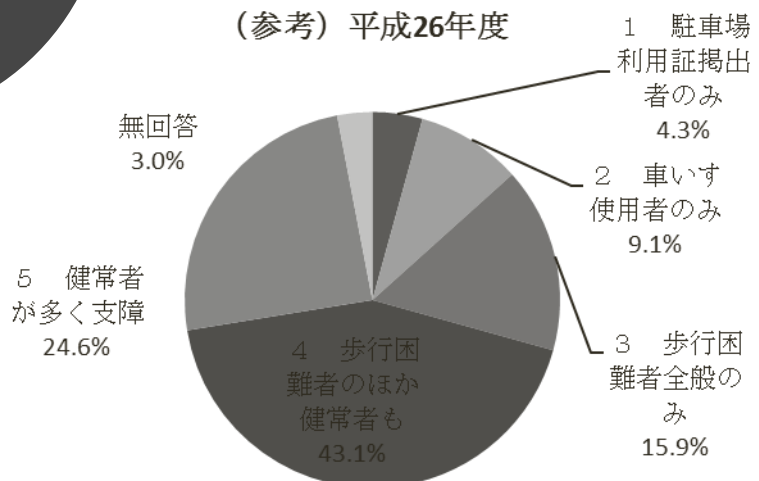
最近の車いす駐車区画の一般的な利用状況について、どう感じていますか。次の中から1つ選んでください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者のみ	10	4.1%	10	4.3%
2 車いす使用者のみ	18	7.5%	21	9.1%
3 歩行困難者のみ	34	14.1%	37	15.9%
4 歩行困難者のほか健常者も	120	49.8%	100	43.1%
5 健常者が多く支障	53	22.0%	57	24.6%
無回答	6	2.5%	7	3.0%
計	241	100.0%	232	100.0%

### 車いす駐車場適正利用の状況



### (参考) 平成26年度



### 【調査結果】

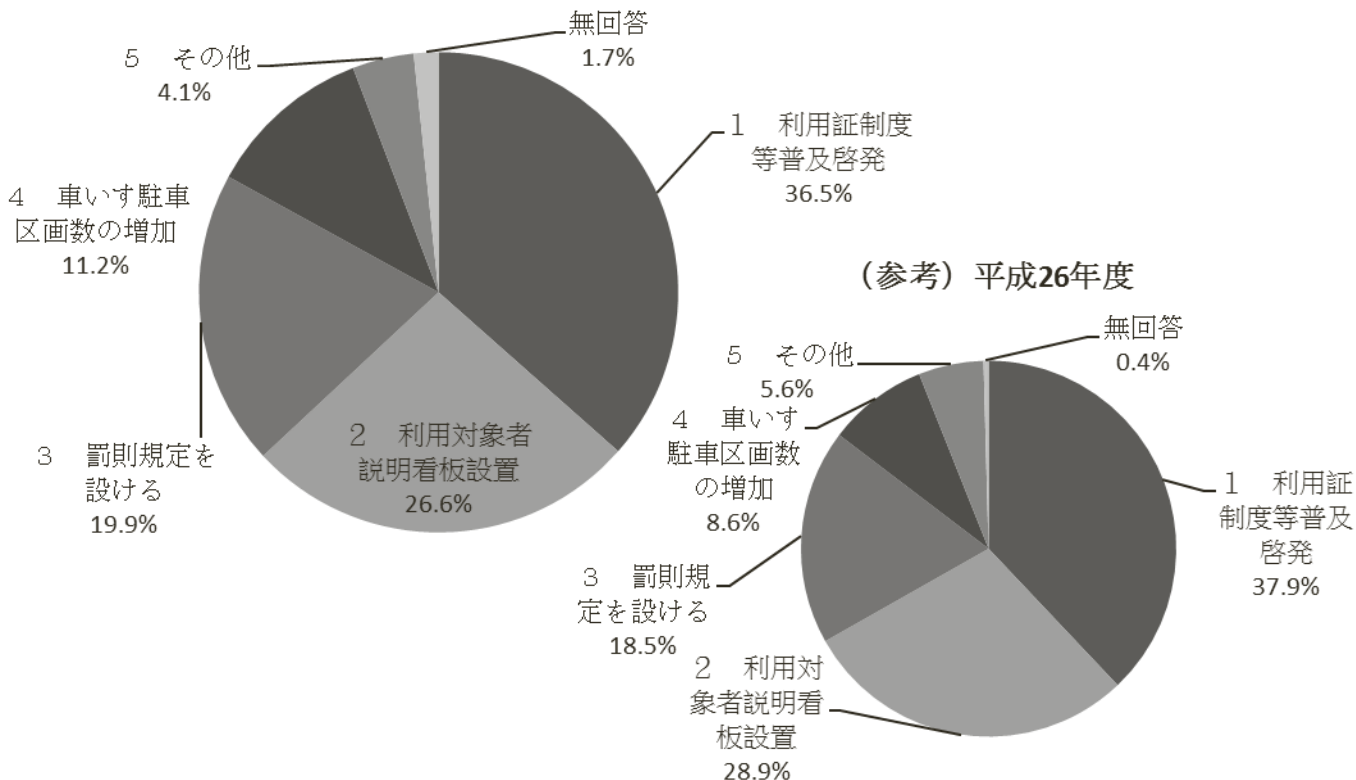
平成26年度と比較して、望ましい利用状況(「駐車場利用証掲出者のみ」「車いす使用者のみ」「歩行困難者全般のみ」)の割合がやや減少(-3.6ポイント)しており、健常者による不正利用が課題であることが伺える。

## 質問10

車いす駐車区画を車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な人が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたらよいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等普及啓発	88	36.5%	88	37.9%
2 利用対象者説明看板設置	64	26.6%	67	28.9%
3 罰則規定を設ける	48	19.9%	43	18.5%
4 車いす駐車区画数の増加	27	11.2%	20	8.6%
5 その他	10	4.1%	13	5.6%
無回答	4	1.7%	1	0.4%
計	241	100.0%	232	100.0%

### 車いす駐車区画適正利用のための方策



### 【調査結果】

平成26年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車いす駐車区画利用対象者の説明看板を設置するよう求める声が多い。

<5その他の内容>

- 車いす駐車区画の表示ペイントなどが老朽化し、薄くなってわからなくなっている駐車場が多くみられる。はっきりわかるよう塗り替える必要があると思う。
- 利用証のほかに車に直接貼り付け可能なシールなどを発行したら良いと思う。

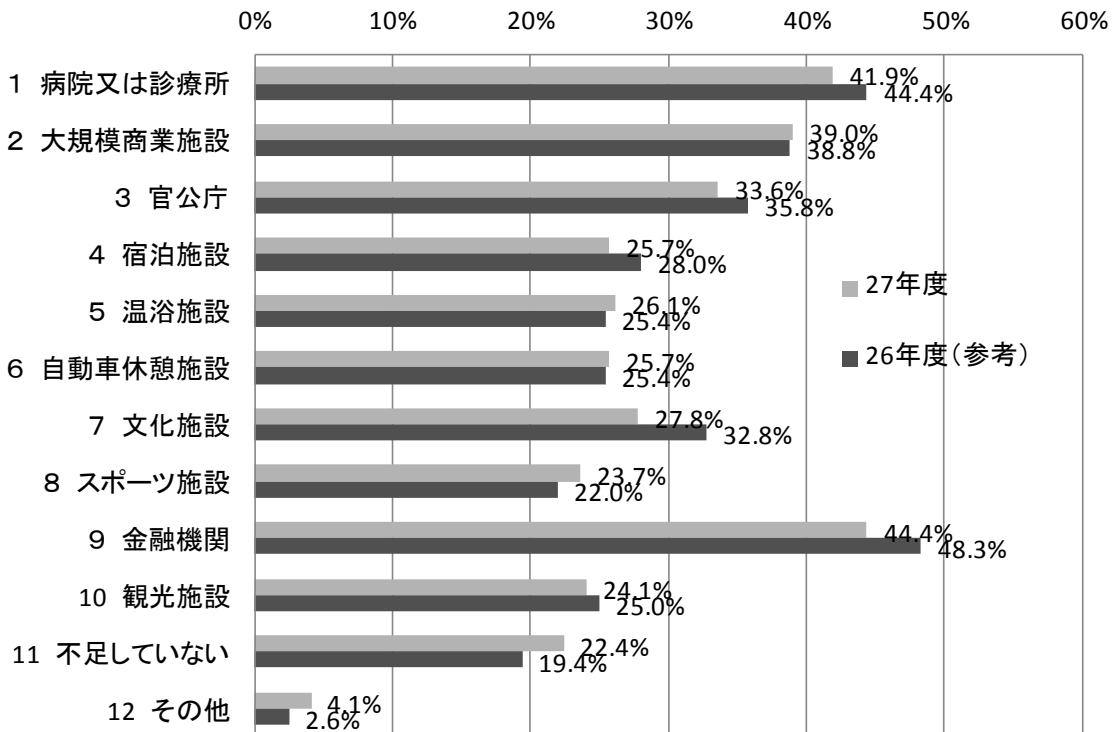


## 質問11

以下の施設のうち、車いす駐車区画が不足していると思われる施設全てに○を付けてください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	101	41.9%	103	44.4%
2 大規模商業施設	94	39.0%	90	38.8%
3 官公庁	81	33.6%	83	35.8%
4 宿泊施設	62	25.7%	65	28.0%
5 温浴施設	63	26.1%	59	25.4%
6 自動車休憩施設	62	25.7%	59	25.4%
7 文化施設	67	27.8%	76	32.8%
8 スポーツ施設	57	23.7%	51	22.0%
9 金融機関	107	44.4%	112	48.3%
10 観光施設	58	24.1%	58	25.0%
11 不足していない	54	22.4%	45	19.4%
12 その他	10	4.1%	6	2.6%
(回答者実数計)	241	—	232	—

### 車いす駐車区画が不足している施設



#### 【調査結果】

金融機関、病院、大規模商業施設の順に車いす駐車区画の不足感が高い。

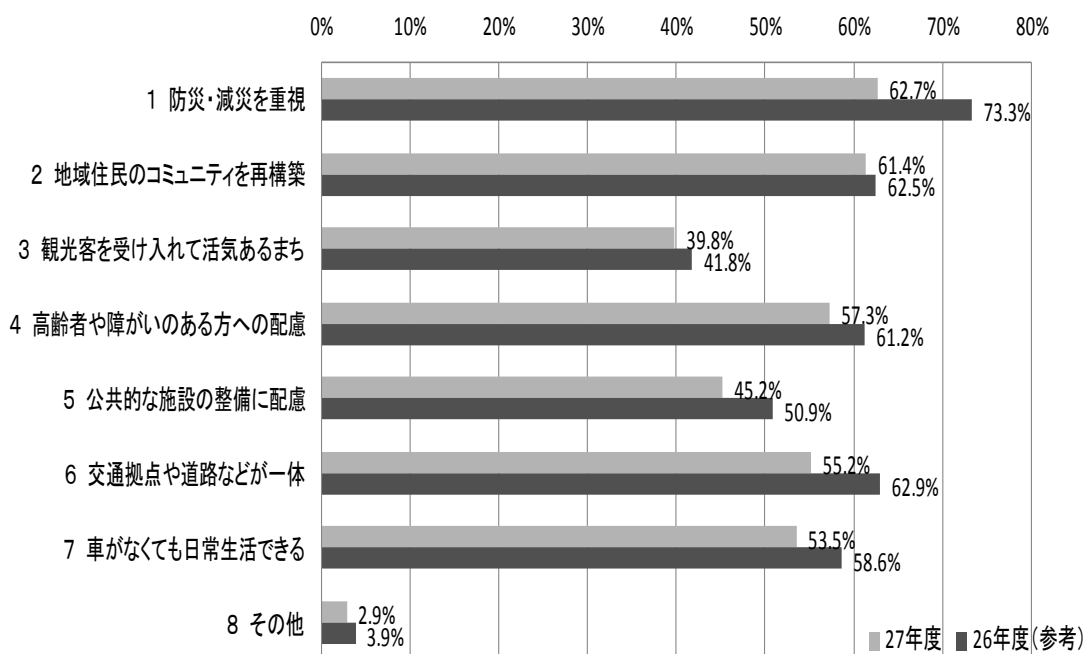
<12その他の内容>

- 車いす駐車区画を一般の人が使用していることがある。
- イベント等、仮設の駐車場への配慮が足りない。
- 全ての施設に必要とまでは言えないと思う。
- どの施設にどの程度必要なのかわからない。

## 質問12-1

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの考え方で重要だと思われることは何ですか。当てはまるもの全てに○を付けてください。(複数回答、比率は回答者実数に対するもの)

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	151	62.7%	170	73.3%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	148	61.4%	145	62.5%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	96	39.8%	97	41.8%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	138	57.3%	142	61.2%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、だれでも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	109	45.2%	118	50.9%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	133	55.2%	146	62.9%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	129	53.5%	136	58.6%
8 その他	7	2.9%	9	3.9%
(回答者実数計)	241	—	232	—



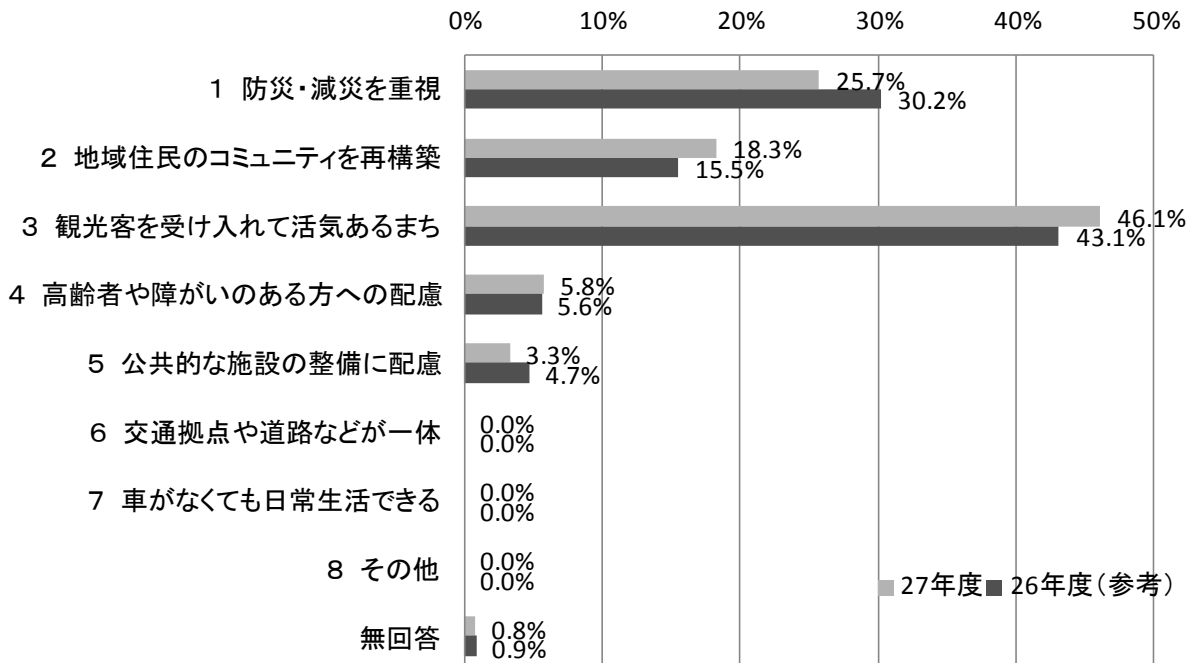
### 【調査結果】

平成26年度と同様に、「防災・減災」の安全面を重視する意見が最も多い。続いて、「地域住民のコミュニティ再構築」、「高齢者・障がい者への配慮」の割合が高く、ハード面とソフト面が一体となったまちづくりが望まれている。

## 質問12-2

さらに、最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	62	25.7%	70	30.2%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	44	18.3%	36	15.5%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	111	46.1%	100	43.1%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	14	5.8%	13	5.6%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、だれでも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	8	3.3%	11	4.7%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	0	0.0%	0	0.0%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	0	0.0%	0	0.0%
8 その他	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.8%	2	0.9%
(回答者実数計)	241	-	232	-



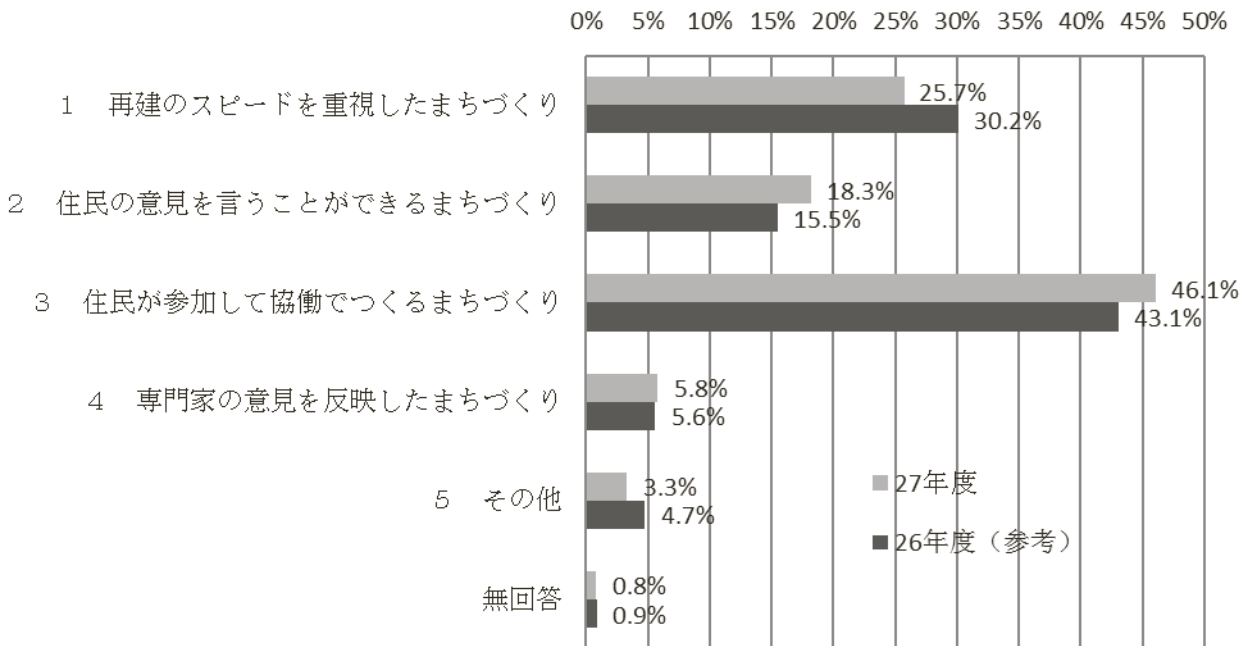
### 【調査結果】

「観光客の受入れ」、「防災・減災」、「地域コミュニティの再構築」の割合が高く、安心して豊かに生活できる、活気あるまちづくりを重視していることが伺える。

### 質問13

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの進め方として、特に重要だと思われることは何ですか。次の中から1つ選んでください。

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 再建のスピードを重視したまちづくり	62	25.7%	70	30.2%
2 住民が意見を言うことができるまちづくり	44	18.3%	36	15.5%
3 住民が参加して協働でつくるまちづくり	111	46.1%	100	43.1%
4 専門家の意見を反映したまちづくり	14	5.8%	13	5.6%
5 その他	8	3.3%	11	4.7%
無回答	2	0.8%	2	0.9%
(回答者実数計)	241	—	232	—



#### 【調査結果】

「住民参加・協働」と「再建のスピード重視」が多いが、平成26年度と比較して、住民参画・協働や住民の意見を言うことができるまちづくりを重視する意見が増えている。

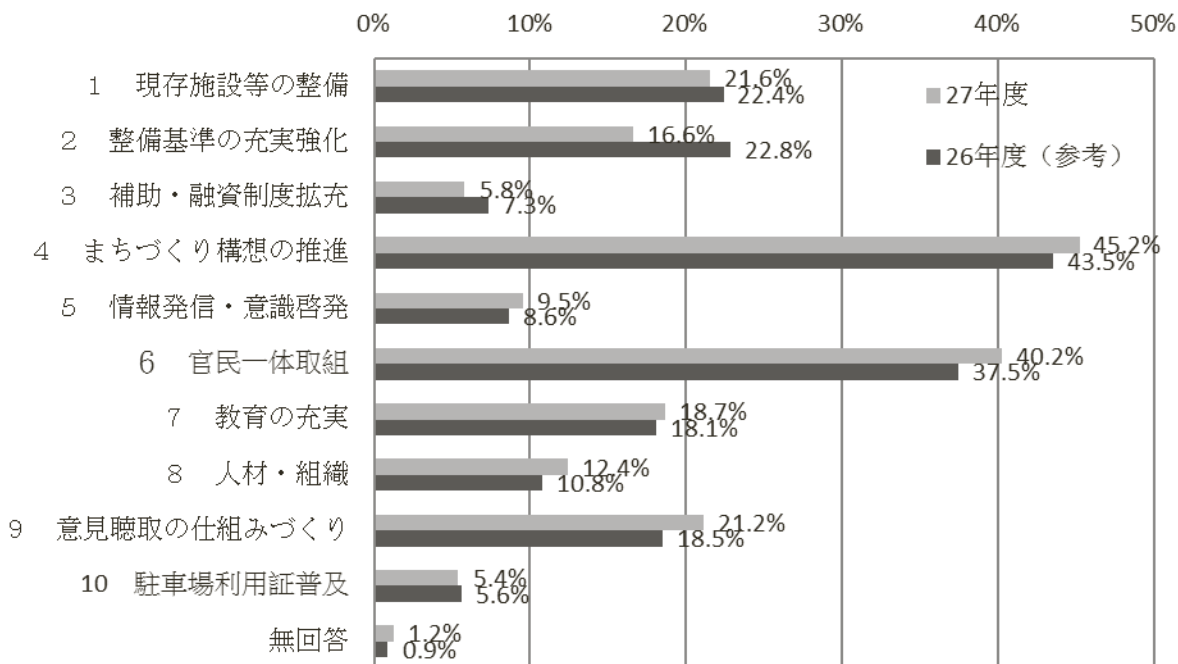
<5その他の内容>

- 専門家には計画についてのメリットだけでなく、デメリットの説明もしてほしい。地域住民への説明が不足していると感じる。
- どれも重要だと思うが、計画時に住民の意見を聞いていると思うので、あとはスピードだと思う。
- 住民の意見を取り入れて、スピードよく進むことが望ましい。
- 住民が参画してまちづくりをすれば良いと思うが、全て他人任せのように見える。
- 新しいビジョンとそれを実現するための財源の確保が重要。
- 防災、減災の重視

## 質問14

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていくうえで、施策として特に重要だと思われることは何ですか。次の中から2つ選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの）

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	52	21.6%	52	22.4%
2 整備基準の充実強化	40	16.6%	53	22.8%
3 補助・融資制度拡充	14	5.8%	17	7.3%
4 まちづくり構想の推進	109	45.2%	101	43.5%
5 情報発信、意識啓発	23	9.5%	20	8.6%
6 官民一体取組	97	40.2%	87	37.5%
7 教育の充実	45	18.7%	42	18.1%
8 人材・組織	30	12.4%	25	10.8%
9 意見聴取の仕組みづくり	51	21.2%	43	18.5%
10 駐車場利用証普及	13	5.4%	13	5.6%
無回答	3	1.2%	2	0.9%
(回答者実数計)	241	—	232	—



### 【調査結果】

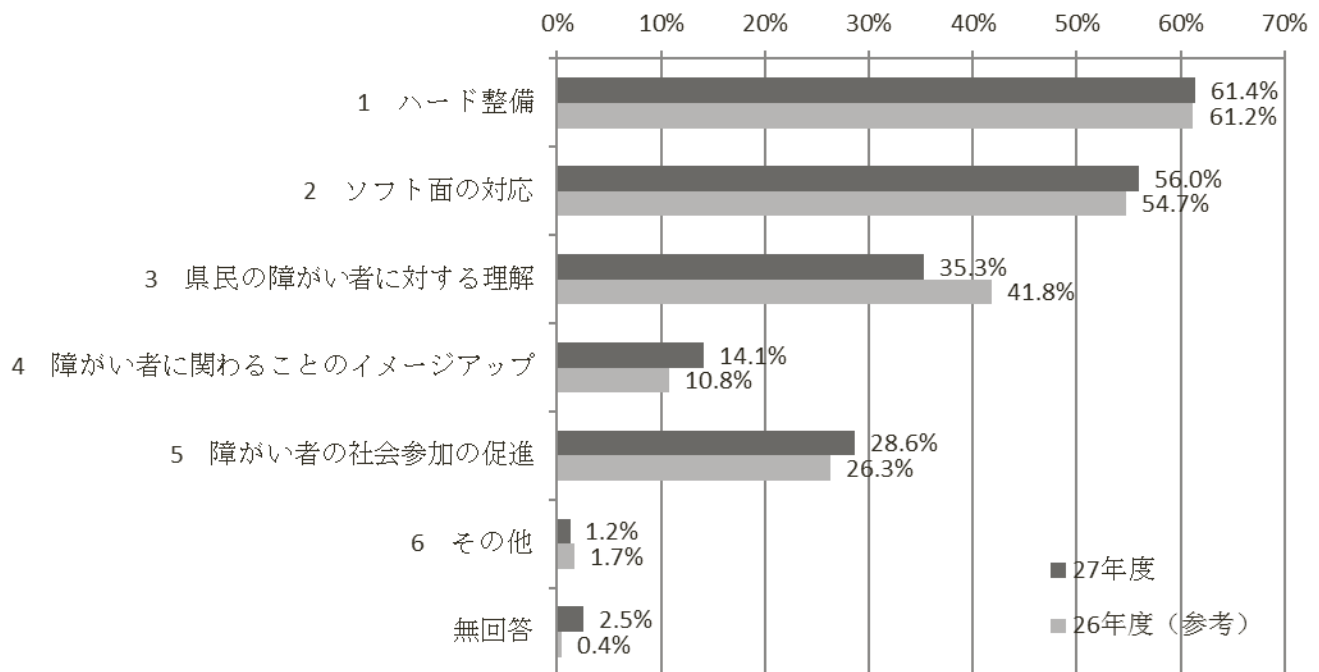
平成26年度に続き、「まちづくりの構想の推進」、「官民一体となった取組」が多い。「現存施設等の整備」や「意見聴取の仕組みづくり」の割合も比較的高く、住民や利用者の意見を反映させた施設等のハード整備についても重要視していることが伺える。

## 質問15

平成28年には、本県において第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」及び第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が開催予定であり、全国から訪れる選手や関係者を復興支援への感謝とおもてなしの心でお迎えするため、県民総参加による開催準備を進めています。

特に、全国障害者スポーツ大会では多くの障がい者の方が来県されることから、施設（ハード面）の整備とともに、人的（ソフト面）対応についても向上していく必要があります。これらの取組に関して重要だと思われることを、2つ選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの）

	27年度		26年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 競技会場、宿泊施設、観光施設、商業施設などのハード整備	148	61.4%	142	61.2%
2 事業者や県民による、おもてなしなどのソフト面の対応	135	56.0%	127	54.7%
3 県民の障がい者に対する理解	85	35.3%	97	41.8%
4 障がい者に関わることのイメージアップ	34	14.1%	25	10.8%
5 障がい者の社会参加の促進	69	28.6%	61	26.3%
6 その他	3	1.2%	4	1.7%
無回答	6	2.5%	1	0.4%
(回答者実数計)	241	—	232	—



### 【調査結果】

平成26年度に続き、「ハード整備」が最も多いが、「ソフト面の対応」や「障がい者に対する理解」といった人的な対応についても割合が高く、ハード・ソフト両面の取組が求められている。



質問16(御意見・御要望自由記載)

●高齢者など交通弱者に対する配慮が少ない。

●施設を整備しても、特に駐車場などにおいて一般の方のマナーが悪い。障がい者優先は、都会よりも地方の方が守られないケースがある。また、観光地では、一時的な滞在ということもあってか、何をやっても構わないような調子で行動する人もいるので、罰則も必要だと思う。

●障がいに対する理解を深め、障がい者と健常者の心の距離をなくすイベントを開催してほしい。

●互助の精神が重要。

●車いす駐車区画に駐車する人は、利用証を掲示しなければ誤解を招くと思う。

●バリアフリー化の推進においては、防災のことも考慮して進めていく必要があると思う。

●一番大事なのは「教育」であり、人材を育てること、高い意識を持った子ども達を育成することだと思う。

●「ひとにやさしいまちづくり」はとても良いことだと思う。障がい者に対する私達の理解も大切だと感じる。同じ目線、同じ立ち位置で取り組んでほしい。

●年齢が高くなるにつれて、若い頃には何とも感じなかった段差やでこぼこが高齢者や障がいがある方には大変不便であるということを実感するようになってきた。

●住民や利用者等の意見を取り入れて整備していくことが大切である。希望郷いわて国体・希望郷いわて大会のボランティアに1人1回は参加することを県民運動にするよう望む。

●選択と集中をしなければならないのではないかなと思う。

●「ひとにやさしい」というのは、結局は「思いやりの心」が大切だと思う。

●怪我のため車いすを使用することになり、整備された施設でも、車いすでは回転しにくかったり、わずかな段差も車いすでは転倒に繋がりがねない恐怖を体験した。今後は、問題点等の改善について積極的に提言等していきたい。

●公共的施設を新設した施設、又は改善した施設はひとにやさしいまちづくりを目指して整備されているが、改善が遅れている古い公共的施設が多くみられる。特に、財政的に厳しい市町村での対応が遅れている気がする。全県的に調査し、県民に公表してほしい。利用する際の注意を促すこともひとにやさしいまちづくりの一つではないか。

●条例が制定されてから20年経ち、普及啓発をしながら今日まで様々な施策が講じられ、日常の利便性が高くなってきていると実感する。今後、人口が減少していく中で、ハード面やソフト面において行政と地域の皆が理解、協力しながら話し合い、知恵を出し合って推進し、実現してほしいと思う。

●ひとにやさしいまちづくりについて、県民一人ひとりが関心を持てるよう、意識の向上を図ることが大切だと思う。

●障がいのある方や高齢者の方々の生の声をもっと聞くことが必要だと思う。

●田舎で暮らしている1人暮らし、高齢世帯、障がい者に対する支援等も考慮していただきたい。

●様々な施設の整備も大切だと思うが、あまり力を入れず、障害のある方に少し力を貸すことが大切なのではないかなと思う。

●官民学を総動員してひとにやさしいまちづくりを進める必要がある。

●一人ひとりが相手の立場に立った行動をすることが必要。

●ひとにやさしいまちづくりのイメージとして、とかく高齢者や障がい者に目を奪われがちだが、生活困窮世帯の子が、経済的な理由で進学を断念せず、安心して学業に専念できる「ひとにやさしいひとづくり」もあってほしい。

●トイレに使用済みの高齢者用オムツを捨てるためのゴミ箱を設置してほしい。

●障がい者や高齢者が通院や買い物で外出するための、安く移動できる交通手段について社会的支援が必要。

- 被災地は、これから道路や公共的施設が作られるので、新しいまちがひとにやさしいまちになるよう大いに期待している。
- 行政が一人歩きしている傾向を感じる。もう少し時間をかけて、県民にも納得のいくような事業を推進してほしい。
- 公共施設等はバリアフリー化が進み、障がい者の方も利用しやすくなってきたと思う。ただ、古い建物で自動ドアでない場合、不便に感じている車いす使用者もいるように見受けられる。また、スーパーの車いす駐車区画に平気で停めている人もおり、もっと普及啓発活動を行う必要があると感じる。
- 毎日の生活でもう少し他人を思いやる気持ちを皆でもって暮らせたらと思う。
- モニターアンケートを通してひとにやさしいまちづくりについて学ぶことができ良かった。
- 福祉を理解し、実行力のある方が先頭に立っていくことが望ましい。
- 体が不自由とか子どもか高齢者とか関係なく、皆にやさしいまちが理想。施設が整えば良いということではない。
- 障がいのある方も可能な範囲で様々な活動に参加する等、社会との共生を目指すことも大切。
- ひとにやさしいまちづくりについて、このような調査がなければ分からなかった。
- 障がいのある方に対して、普段どおりに接したいと思う。
- 大分ひとにやさしいまちになっていると感じる。「ひとにやさしい」まちは、いずれ「自分にやさしい」まちとなるよう、「物」と「心」のバリアフリーが必要かと思う。行政だけではできないこともあるかと思うので、県民の協力と理解のもとにより良い環境となるよう望む。
- 障害や病気が不憫ということではなく、すべての県民が、相手を思いやる気持ちとやさしさを持つことが必要。あらゆる分野から人材を発掘し話し合うことが望ましい。
- 住民の意見を聞いた方が良いと思う。今、住んでいる地区はひとにやさしいまちづくりの考え方が反映されていないところが多々ある。
- 行政と専門家で取り組んでほしい。
- 歩行者が安心して通れる道路にしてほしい。通学路の整備について、しっかり取り組んでほしい。障がい者の方が、車いすで自由に散歩できれば良いと思う。
- 地域住民の声に関心を持ち、行政と民間が協働でまちづくりを推進してほしい。
- 駅によっては、ユニバーサルデザイン対応の施設とは言えないものもあり、駅ごとに差を感じる。
- 世代間交流が少なく、コミュニケーションが希薄化していることで、相手の立場に立って考えることができない人が多いような気がする。コミュニケーションの場を設けて、ソフト面を充実させることも必要。
- 県北の歩道は狭く、とても歩きづらい。特に、高齢者は危険と隣り合わせのように感じる。また、まち全体として、公共施設の案内表示がわかりにくい。以前、都市部に出かけたことがあり、都市部と中山間ではひとにやさしいまちづくりに対する意識に差があるように感じた。
- 国体などのイベント準備のため道路工事が多いが、片道通行や回り道などの案内が少ないと思う。
- 自分さえ良ければよいという人が増えている。将来、誰しも高齢者となり、障がいを持つ可能性もある。高齢社会が進むがなか、関心を持ち、優しく見守り接し、労わることが必要。

●県の広報等で様々な取組を目にする。ユニバーサルデザインという言葉を知ってから、新しい施設ができると、「確かにこれはやさしい」と思っ見てみることも多くなった。施設が整備されることで子どもも高齢者も障がい者も一緒に出歩けるようになり、それがやさしさにつながっていくのではないかと思う。

●車いす駐車区画の表示の色を赤にして目立つようにし、本当に必要な方が常に使用できるようにすれば、対象者以外の人々の使用がなくなるのではないかと思う。

●ひとにやさしいまちづくりには、そこに住む私達一人ひとりが問題意識を持ち、考え、行動することがスタートだと思う。そういう想いを常日頃持ちながら、日常に埋没し、何もできない自分もどかしい。

●意見を聴くのも大切だと思うが、行政には弱い人の立場、相談者の立場に立った考え方が必要だと思う。

●施設整備を行う上で大切なことは、その後の活用の仕方、県民への還元を考えることだと思う。人口が減少するなか、ただお金をかけるのではなく、皆で考えていく必要がある。

●道案内など、おもてなしの気持ちをもって対応すべきである。

●小さい頃から様々な人と触れ合い、理解することが必要だと感じる。

●車いすの人も杖を使用している人も歩けるように、坂や段差のないまちづくりをしてほしい。

●押し車を使用して外出する場合、高低差が激しいところでは、何度もエレベーターを利用したり、そのために遠回りをする必要があり大変である。

●都会ではひとにやさしいまちづくりが充実していくと思うが、田舎では高齢化、過疎化が進み、経済的にまちづくりにかける予算が不足するのではないかと思う。

●自分や家族が病気になったりすると、「ここにこれがあれば」と感じる。本当に「ひとにやさしいまちづくり」は大切だと思う。

●車いす駐車区画は利用対象者がわかりづらいと思う。妊婦やケガ等による歩行困難者が使用できることを知らない人が多いためトラブルも多いと聞く。お金はかかるが、スペース前に看板を立てるなど対策が必要だと思う。

●行政と民間が連携し、充実したものにするべきだと思う。

●ハード面よりも、障がい者に対する理解を深めることが重要。

●男女共同参画の視点を取り入れ、地域内の交流を重視することがまちづくりの基本になると思う。

●成功させるためであれ、焦ってはいけないと思う。

●車いす用駐車区画に健常者が駐車しているのをよく見かける。本当に必要としている人が利用できるよう、罰則などを設けた方が良いと思う。看板等の設置だけでは効果はほとんどなく、まったく気にせず停めている人が多い。

●バリアフリーに関して、実際に使用する人の声をもっと多く聞くべき。使っている人でなければ分からないことが多いと思う。

●自分は健常者だからか特に不便さは感じない。障がいがある人や高齢者にすれば様々な不便なことはあると思うが、以前よりはずっと良くなっていると思う。

●ひとにやさしいまちづくりが必要なことは理解するが、財政状況を考え、本当に必要な施設整備について、健常者、障がい者が一体となって検討すべきである。

●新しいものをどんどん作り無駄にするのではなく、今あるものに手を加えながら有効活用した方が良いと思う。

- ひとにやさしいまちづくりの活動を、婦人会、老人クラブなどにお手伝いいただくことで活動の活発化を図れないかと思う。
- 安心、安全で生き生きした日常生活が送れるようにしてほしい。
- 国は障がい者雇用に力を入れているが、積極的に雇用している企業の紹介や支援金など、岩手型の独自モデルを確立してみたらどうかと思う。
- 人口減のなか、高齢者や障がい者のみならず、子どもから大人まですべての人たちが地域で住み続けるため、地域の再構築が必要だと思う。
- ひとにやさしいまちづくりについての周知が不足していると思う。行政による勉強会等を実施してほしい。
- 地域内の人々の交流を深める役割を担う人が必要。
- 障がい者が前を歩いていたりすると、舌打ちをする人や嫌な顔をしたりする人をたまに見かけるので、そういうことがなくなれば良いと思う。
- 若者が少なく、活性化など望めない地方のまちづくりをどのように進めればよいのか、難しい問題だと思う。
- 自分をもっと理解を深め関心を持たなければならない問題だと反省させられた。
- ひとにやさしいまちづくりとは、様々な人が不便を感じることなく暮らせることだと思う。バリアフリーのほか、交通の便利さも重要だと思う。
- ハード面の充実には予算に限りがあるが、ソフト面でのおもてなしの心でそれを補っていくのがもっともお客様をお迎えするうえで大切だと思う。
- 障がい者に対する温かい思いやりが持てるように、国民一人ひとりがもっと理解を深めることが必要だと思う。
- 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開催される。おもてなしの心(おもいやり、礼儀、マナー)がないと、ひとにやさしいまちづくりができないと思う。
- 希望郷いわて大会の開催を機に、社会参加促進のため、身体障がい者のみならず、障がいがある方(手帳所持者)に対し、交通機関の運賃割引を導入するべきだと思う。
- 多様な意見があると思うが、調整、決定の過程をオープンにしてほしい。
- ひとにやさしくしようとする人が最近あまりいない気がする。商業施設の駐車場で駐車に時間がかかっていた高齢者を怒鳴って叱責する若者を見た。また、乳児とバスを利用し、優先席に座ろうと思ったところ、乗客が荷物置き場にして座っていたこともあり、利己主義な人が多く、残念な気持ちになった。
- 障がい者や介助者の意見をよく聞いた方が良い。健康な人が話し合いをしても細かいことは気が付かないと思う。
- 自分や乳児が発熱し、どうしても車いす駐車区画を利用したい時があった。乳児2人を連れて買い物をする時も使いたいと思ったことがある。罰則規定を設けたらどうか。
- 一見すると障がいがあるように見えない人に対しても、偏見や差別を持たずに接していける教育ややさしいまちづくりをしてほしい。
- 歩道の整備が重要。
- 若い人達のために笑って暮らせる環境づくりをしていかなければならないと思う。
- いずれ年はとっていくし、今、健康でもいつか障がい者になるかもしれない。あらゆる人の立場になってまちづくりを考えていけば良い方向に向かうのではないか。
- 一般の方も高齢の方も障がい者の方にも利用しやすい施設を望む。
- ますますこの活動が活発になればいいと思う。
- 人口が減少していく地域では、今まで住民で行っていた作業が難しくなっている。行政には、未来をイメージしてまちづくりをしてほしい。

●慈しみの心が大切だと思う。

●障害がある方、サポートしている方をまちでよく見かけるようになった。電車、バスを利用して出かける方も多く、サポートする乗務員にも感心している。自身も歳を重ね、道路や出入口等の段差やでこぼこ、照明の暗さが気になるようになった。

●住みよい街と言うが、真冬に子どもが1時間もかけて徒歩で登校する姿は痛々しく、スクールバスがあっても良いのではないかと思う。バリアフリーも大切だが、車がない人も多いので、もっと身近に郵便局や銀行を増やしてほしい。

●人の悩みを聞いたら、進んで相談に応じること、高齢者や若者と連携を取り合うことが必要。

●国体があるため、駐車スペースの整備や会場の見直しが必要だと思う。

●子どもが小さい頃はベビーカーを使用する時に不便だと思う場所が多くあったが、子どもが成長するにつれ、そういう思いも忘れつつある。改めて、「ひとにやさしいまちづくり」について考え直してみたいと思った。県の事業についても初めて知ることが多かった。こういった展開はもっと広くPRしてほしい。

●罰がなければ車いす駐車区画の不適正利用はなくならないと思うが、そのような事態が悲しいことだと思う。

●障がい者、高齢者にやさしいまちづくりはもちろんだが、道路の整備や高齢者施設の職員の充実など、日常生活のしやすさも重要だと思う。

●小さい時から家庭や学校で繰り返し教えていくことが大切だと思う。

●ハード整備等が立派でも、おもてなしの心が一番。

●ひとにやさしいまちづくりは、ある側には都合が良く、反対側には不都合な場合があり、双方の満足が得られることができないこともあるので、一口にひとにやさしいまちづくりというが、簡単にできることではないような気がする。

●マイノリティである障がい者に配慮した街は、マジョリティである健常者にとっても住みやすく暮らしやすい街である。だから、「ひとにやさしいまちづくり」を進めていこうとするなら、まず、障がい者の視点を取り入れるべきだと思う。

●ひとにやさしいまちづくりは、県民に十分に普及しているとは言えないので、日頃からの普及啓発が大切だと思う。特に、利用者の立場に立った設計が必要であり、障害がある方の参加や意見を取り入れたまちづくりが不足しているように考える。